

法人名	姫路医療生活協同組合
事業所名	東部

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		
I 構造評価 (Structure) [適正な事業運営]									
(1) 理念の明確化									
①	サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	○				理念“いつでもつながる安心を提供し、その人らしい暮らしをささえます”と明確に掲げている。	自己評価の内容を確認した。
(2) 適切な人材の育成									
①	専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している	○				サービスの特長・理念を認識し、相談や依頼があった際には丁寧に説明を行っている。	自己評価の内容を確認した。
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している	○				年間の研修計画を立て、研修が受けられる体制を整えている。部会、外部研修などで事例発表や検討会を行っている。	自己評価の内容を確認した。
		4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	○				情報共有・サービスの統一を図り易くするため、職員を限定し、職員個々が自身の能力を発揮できるよう体制を整えている。	自己評価の内容を確認した。
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				対面や電話の他、ヘルパーが入力した介護記録を閲覧できるツールを活用し、関係機関に情報提供している。法人内事業所とは月1回カンファレンスを開催し、利用者の身体状況・サービス内容等の確認や共有を行い適時適切に助言を得ている。	訪問前に記録を確認させてもらっている。バイトル等必要な情報が記録されているため助かっている。
(3) 適切な組織体制の構築									
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている		○			訪問時間、ルートなどを適宜見直し、夜間・早朝の緊急時の対応がスムーズに行えるよう努めている。	夜間・早朝の緊急はどのように対応されているか気になっていましたが、1名の職員で対応できる体制であると理解できました。
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている		○			今年度は滞りなく開催できた。会議で得られた要望、助言等をサービスの提供等に反映させている。	自己評価の内容を確認した。
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備									
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				対面や電話の他、ヘルパーが入力した介護記録を閲覧できるツールを活用し、関係機関に情報提供を行っている。	いつも閲覧させてもらっている。日々の様子をリアルタイムに確認することができ助かっている。
(5) 安全管理の徹底									
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)		○			感染症・自然災害BCP策定。訪問時には防犯ブザー・懐中電灯の携帯、車載カメラの設置、事務所にはセコムを設置する等の防犯対策を講じている。	利用者様がコロナに罹患した際、対応できる事業所が少ない中、迅速に対応していただき助かりました。
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	○				利用者カルテは鍵付きの書庫で管理。年間研修計画に位置付け、個人情報の適切な取り扱いと保護について共有している。	自己評価の内容を確認した。
II 過程評価 (Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				外部評価 コメント	
				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		コメント
(1)利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成									
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	○				介護・看護の両面からアセスメントを行い、利用者の生活リズムに合わせた支援を行っている。	自己評価の内容を確認した。
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				法人内の訪問看護ステーションとは月に1回カンファレンスを行い情報の共有を行っている。法人外訪問看護ステーションとは電話やICTを活用し情報の共有を行っている。	自己評価の内容を確認した。
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			自立支援の視点を持って計画の作成を行い、心身機能の維持回復が図られるよう努めている。	自己評価の内容を確認した。
		14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			関係事業所・多職種と連携を図り、先を見越したリスク管理に努めている。	自己評価の内容を確認した。
(2)利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し									
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				利用者の状態や状況に変化が見られた際は、その都度サービス内容や訪問時間・回数を見直し、必要に応じた柔軟なサービス提供に努めている。	利用者の状態に応じて柔軟に対応してもらっている。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				定期訪問や随時訪問を通じ、継続的なモニタリングで利用者の様子や状態の変化を早期に把握し、関係事業所・職種と速やかに連携を図り、適宜計画へ反映している。	自己評価の内容を確認した。
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	○				密に連携をとりながら、介護職は日常生活の支援や身体的な介助を行い、看護職は医療的な観点から健康管理や病状観察を行い、それぞれの専門性を生かした役割分担で効果的なサービスが提供できるよう努めている。	記録から生活状況が見えてくる。医療職にはない視点でアセスメントが行われていると感じる。
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				連携先訪問看護ステーションの看護師より、利用者個々の疾病予防・病状の予後予測や観察ポイント、介助方法、報告のタイミングなど必要な助言や指導を受けている。	自己評価の内容を確認した。
(4)利用者等との情報及び意識の共有									
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			サービス開始前のカンファレンスやサービス担当者会議等でパンフレットや動画を用いてサービスの趣旨や内容を説明している。	自己評価の内容を確認した。
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている		○			計画書の目標、サービスの具体的内容を説明し、共通の認識が得られた際は署名をいただき一部交付している。	自己評価の内容を確認した。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				緊急時は電話にて家族・関係事業所へ迅速な報告・相談が行えるよう努めている。訪問時の様子を閲覧できるツールを活用し、家族や関係事業所と情報共有を行っている。	記録から生活状況がよく見える。変化があれば柔軟に対応しえらえるので助かっている。
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(1) 共同ケアマネジメントの実践									
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				利用者様の変化に応じて、サービス提供の日時や内容等の見直し・提案を行い、報告や相談を適宜行っている。	記録をリアルタイムに閲覧できるので、サービス状況や心身状況の変化が把握しやすい。
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	○				訪問中に気付いたことや利用者にとって必要だと思われるサービス等を関係事業所に情報提供、相談し、新たなプランの提案を行っている。	介護保険以外のサービス提案もあり、利用者に必要なサービスが提供できている。
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				アセスメントした情報を会議等で報告している。居宅介護支援事業所へ毎月モニタリング報告を行っている。	自己評価の内容を確認した。
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
①	利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)		○			配食弁当、コープの提案を行うことが多い。家族や友人の協力も含まれるため、それらの活用・協力も視野に入れ、包括的に利用者の支援が行えるよう検討している。	自己評価の内容を確認した。
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	○				退院・退所時のカンファレンスには積極的に参加し、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有を行っている。	自己評価の内容を確認した。
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)		○			専門職が適時適切に関わり、その都度状態の変化をお互いに共有し連携出来るように努めている。	自己評価の内容を確認した。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				介護医療連携推進会議の参加者へ会議録を手交している。会議録はファイルにまとめ保管し、誰でも閲覧できるよう事業所内に設置している。	自己評価の内容を確認した。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている		○			ケアマネ協会主催の研修、他団体の勉強会や研修会などへの講師派遣に協力している。	自己評価の内容を確認した。
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画									
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		○			法人より、定期巡回サービスが地域包括ケアシステムの中核を担うサービスのひとつであると常時発信されている。年間研修計画を立て、研修が受けられる体制を整え学習の機会を設けている。	自己評価の内容を確認した。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				外部評価 コメント	
				実施状況					コメント
				できている	ほぼでき ている	できてい ないこと が多い	全くだ きていない		
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	○				地域に展開しているため、特定の建物等に限定したサービス提供は行っていない。	自己評価の内容を確認した。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている(※任意評価項目)		○			独居高齢者をはじめとした、在宅で生活される高齢者にとって、より住みやすい地域にしていくためにフォーマルサービスだけでなくインフォーマルサービスも活用できるよう情報提供を行っている。	自己評価の内容を確認した。
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている		○			生協10の基本ケア・自立支援を念頭に目標を設定している。利用者ごとの目標を職員間で共有し達成に向けて取り組んでいる。	自己評価の内容を確認した。
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				緊急時や体調に変化がある際は、随時対応・随時訪問が行えるため、利用者・利用者家族の安心感に繋がっている。	迅速な対応に感謝している。在宅の限界点を高めることができるサービスと感じる。